

【熊本県賞】

水との関わり

熊本県 阿蘇市立阿蘇中学校 三年 中山 千菜都

ホワッと淡く光る小さい何かは幼い私の目の前を無数に飛びかっ
ていた。

小さい頃、決まって夏になると祖母と兄と共にホタルを見に行った
ものである。運が良ければ家の裏でも見られる年もあったのだが、今
ではホタルが見られる場所もホタルも少なくなってきた。家の裏
で最後にホタルを見たのも十年近く前になる。水辺にはホタルの光が
反射し、黄色く輝やいて見える。私の前を飛んだホタルたちを目で追
うと、ホタルたちの足跡のように黄色い細い線だけが残って見える。
私はその光景をもう一度見たいと感じるのであった。いろんな条件が
あるが、ホタルは水がきれいな場所に集まるのだそうだ。

私は阿蘇市に住んでいる。阿蘇には沢山の水が沸いている場所があ
る。私が住んでいる近くでも、熊本地震の影響で水が湧かなくなっ
た。水の量が減ったりしたところもあるが、今も水が流れ続けている
所がある。また、私の家では産山に行く道の坂の途中にある手野の名
水という所へ月に一、二度軽トラックにペットボトルをつんで、水を
汲みに行っている。汲んだ水は、米を炊くときやポットの水などの生
活用水に使っている。この水で米を炊くとおいしく炊けるのだ。ここ
の水は焼酎の水割に向いているらしい。

水が今でも湧き続けている場所がある一方、かれてしまった所もある。
私の身近な場所でも二つある。一つ目は、家の隣の竹林にある穴だ。
祖母は昭和四十八年に来たのだがその時はまだ、雨が降った翌日
や梅雨明けには水が湧いて出ていたらしい。その穴には、水神さんが
まつられており、今も月の一日と十五日に塩をまいているそうだ。

私の出身校は阿蘇小学校なのだが、入学する前に乙姫小学校
と碧水小学校という小学校が合併してできた。合併する前の碧水小学

校は、近くへの踊山神社にある水が湧いている所の水が碧くきれいだ
ったことからその名前がつけられた。父が小さい頃は、踊山神社に続
く道のまわり一面に水がはっていたらしい。今は水もかれ、杉林が広
がっているだけとなった。一面に水があつたところなど想像がつか
ない。ずっと昔から、人々は湧き水を大切にしてきた。神社を建て、ま
わりを森で囲んだ。地域の総出で掃除をしてきた。そのような歴史
が今、止まろうとしていることが悲しい。

私にとつての身近な水が枯れてしまった所は、昭和五十年以後に行
われた基盤整備やボーリングなどのせいで水が湧かなくなったと言
われている。阿蘇は水が豊かだと言われているが、水が枯れてしま
つた所も多くあるのだ。水のおかげであつた地域とのつながりなども
なくなってきた。

豊かに水があるからといって水を無駄にしていはいわけではない。水
は人と人のつながりにもなる。水は水害をおこしたりなどとても怖
いものではあるが私たちの生活に必要不可欠なものである。私たちは
これからも阿蘇のめぐみである水を大切に、水と共に生きてゆける
よう努めなければいけないと私は考える。